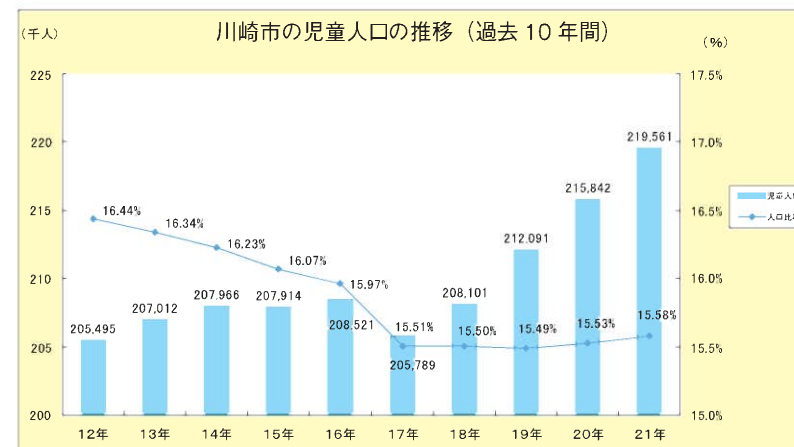


i 川崎市における子どもをめぐる現状

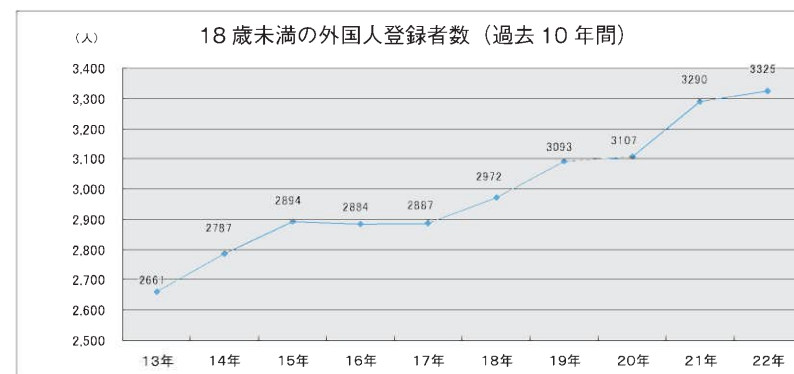
1 子どもの人口の推移

(1) 全体



※出典：「川崎市年齢別人口」各年 10 月 1 日現在の数値。児童人口は 18 歳未満。

(2) 外国人登録から 18 歳未満の人口の推移

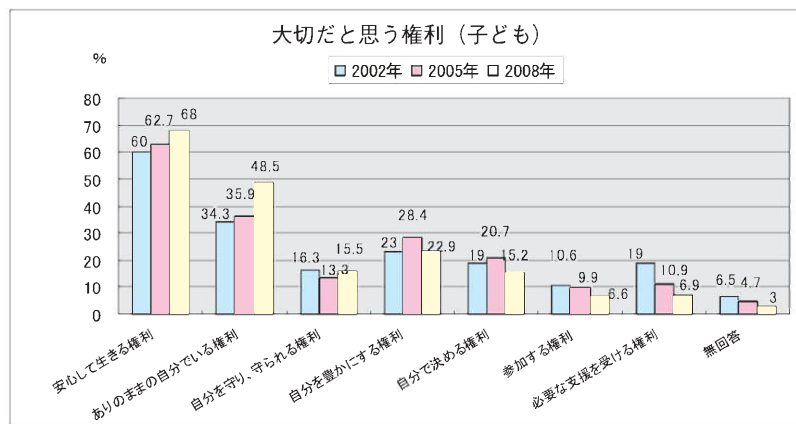


※出典：「川崎市管区別年齢別外国人登録人口」各年 6 月末現在の数値。

2 川崎市子どもの権利に関する実態・意識調査から

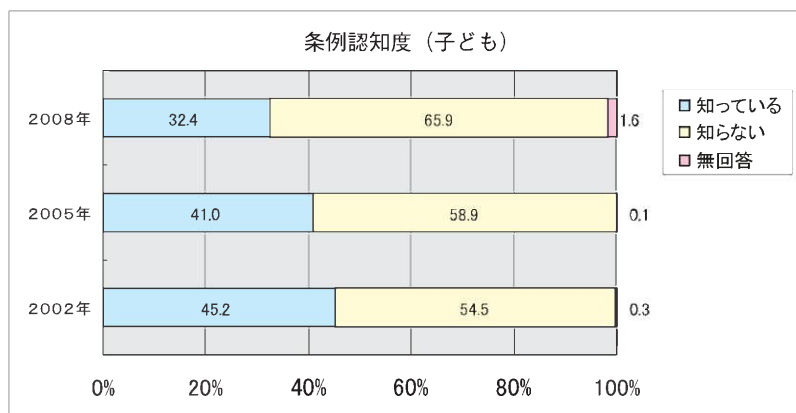
(1) 子どもの権利で大切だと思うもの

*子どもが大切だと思っている権利は、「安心して生きる権利」、「ありのままの自分である権利」、「自分を豊かにする権利」が多いという結果でした。

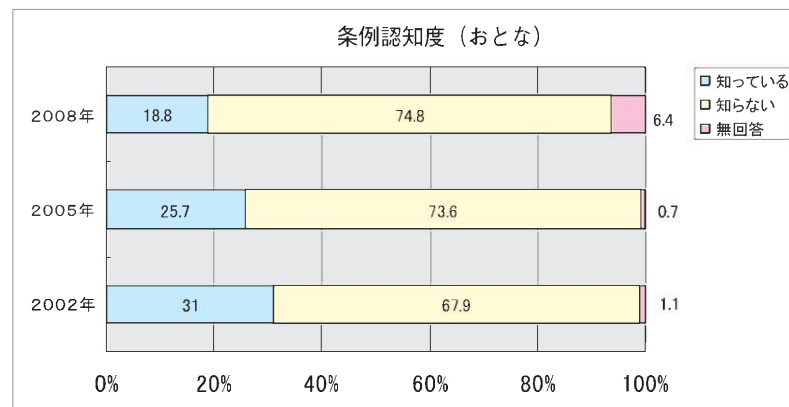


(2) 子どもの権利条例の認知度

*子どもの権利条例を知っていると回答した子どもは2008（平成20）年32.4%で、徐々に低くなってきています。

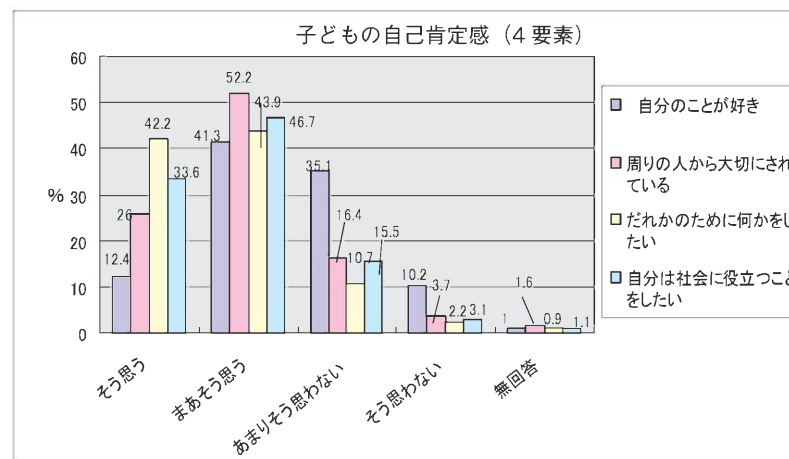


*子どもの権利条例を知っていると回答したおとなは2008（平成20）年18.8%で、徐々に低くなってきています。



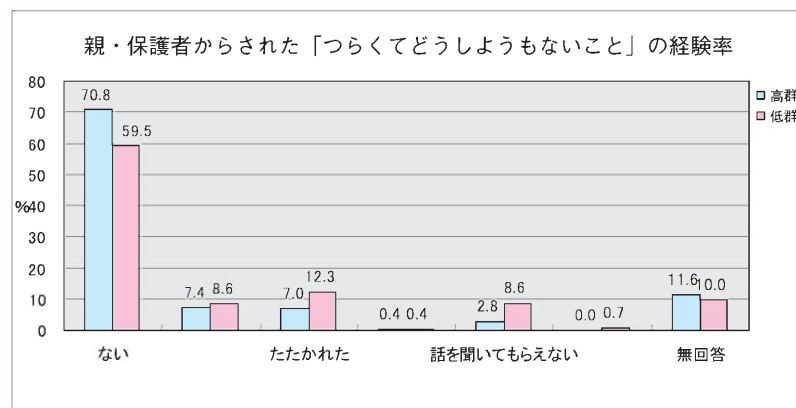
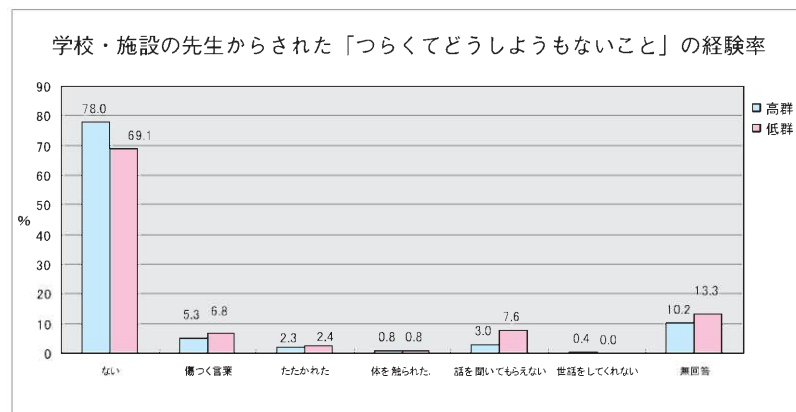
(3) 子どもの自己肯定感

*実態・意識調査における子どもの自己肯定感とは「社会で役立ちたい気持ち」と「自分のことが好きで、周囲から大切にされている実感がもてること」の二つの気持ちからなっています。

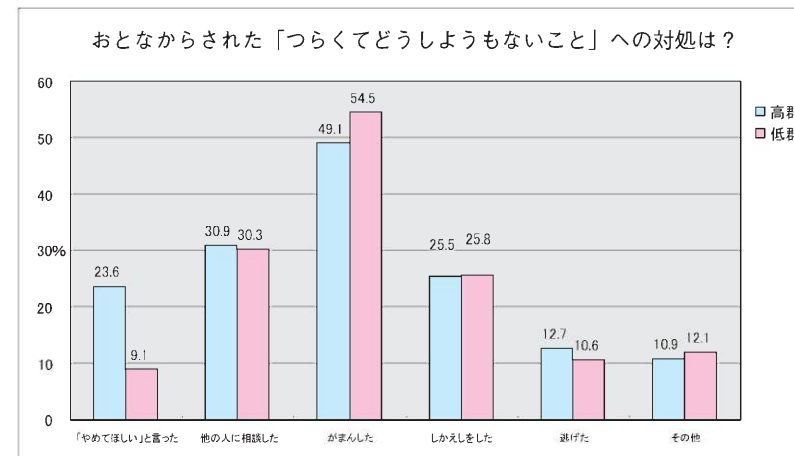


(4) つらい体験

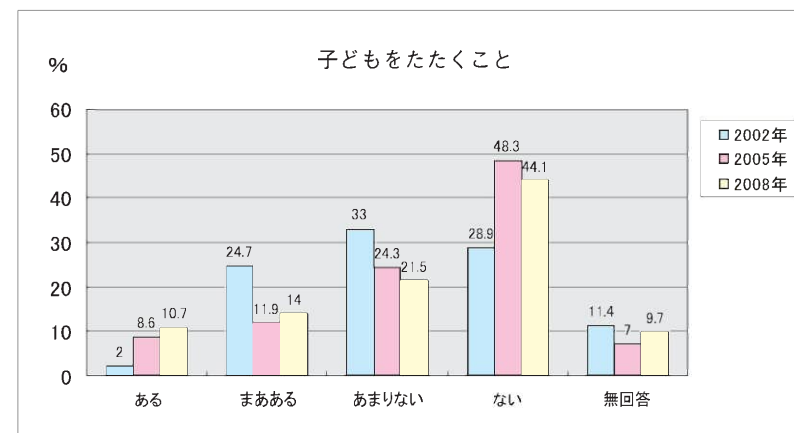
* 自己肯定感の高低による「おとなからのつらい体験」の対処法の相違。

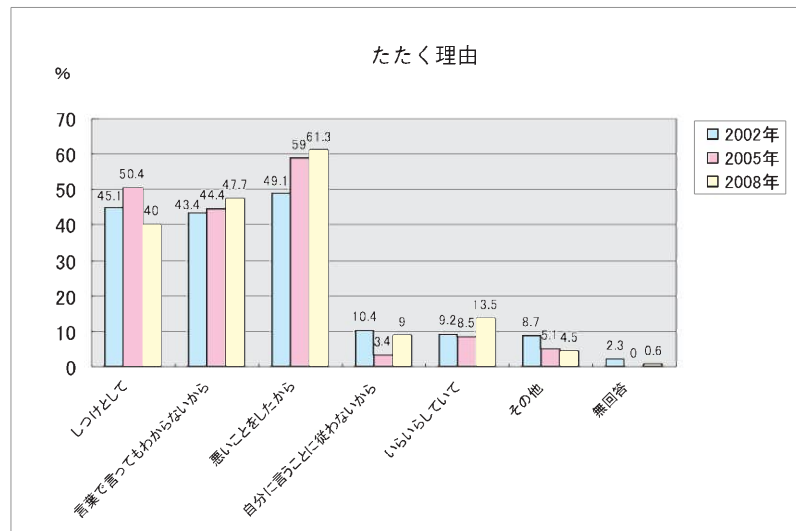


* おとなからの「つらい体験」について、自己肯定感の高低に関わらず、子どもは主として我慢する方法を選ぶ傾向があります。ただし、おとなからの「つらい体験」の際に「やめてほしい」と言った割合は、自己肯定感が低い子どもは9.1%と低く、自己肯定感の高い子ども（23.6%）との差があります。



(5) 子どもをたたくことがあるか

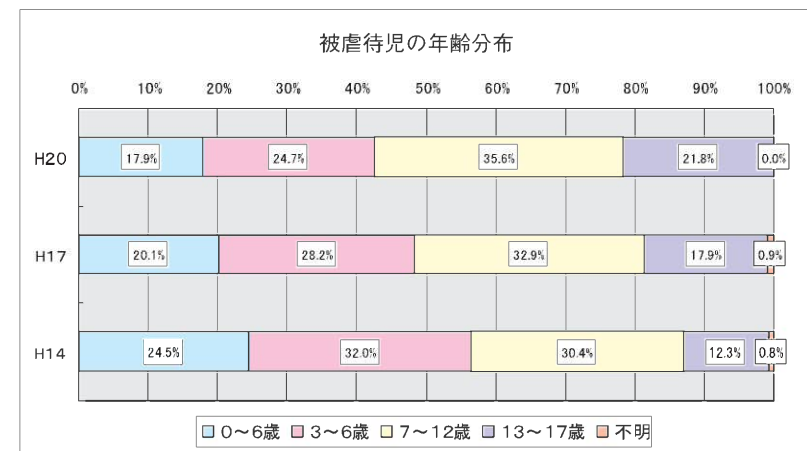
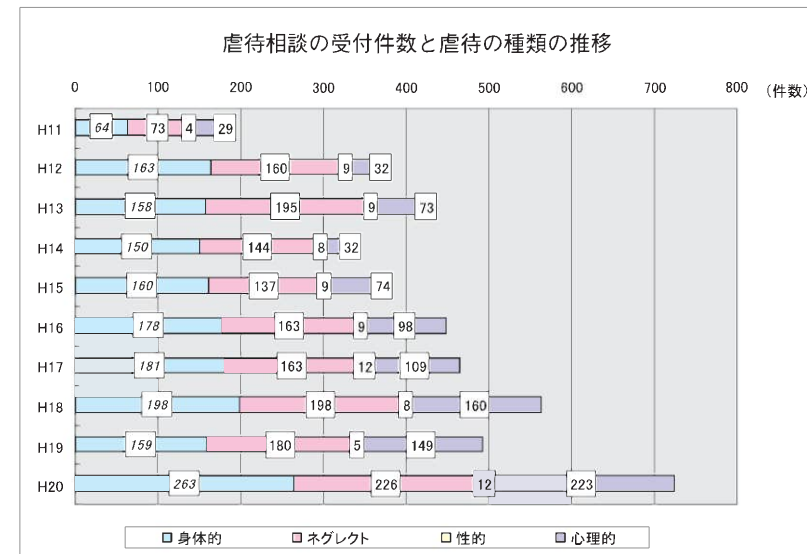




※出典：川崎市子どもの権利に関する実態・意識調査

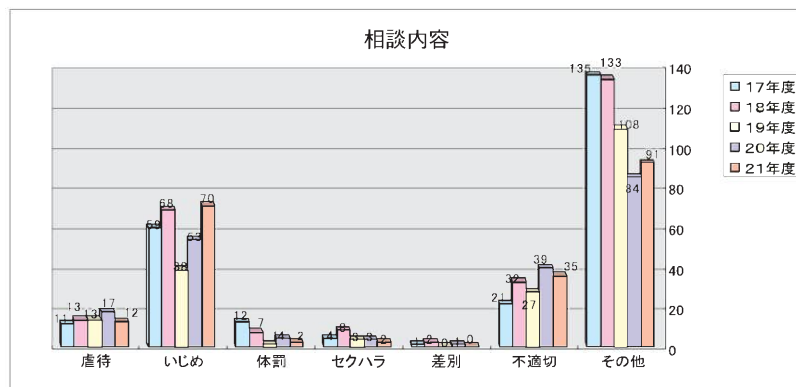
3 川崎市における子どもへの相談・救済に関する現状

(1) 児童虐待に関する報告から

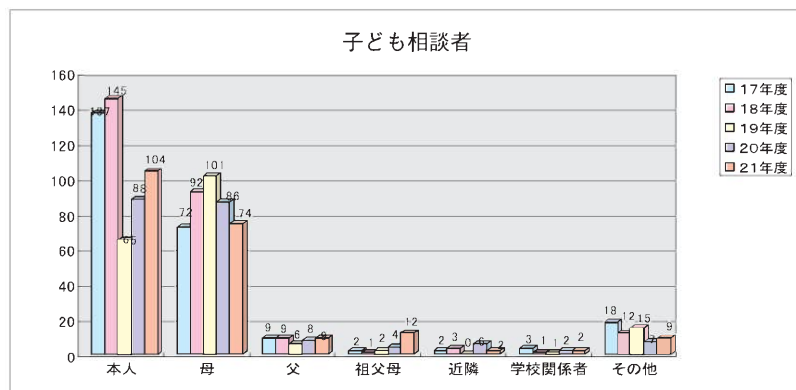


※出典：「児童虐待に関する報告書」（平成 20 年度版）川崎市中央児童相談所・南部児童相談所

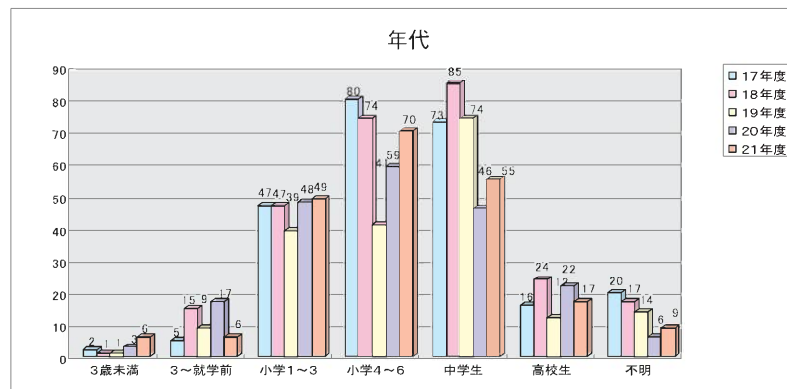
(2) 人権オンブズパーソン報告書から



*子どもの相談では、2009（平成 21）年度に子ども本人からの相談が 104 件（49％）で、前年度より 16 件増加しています。母親からの相談は 74 件（35％）で、前年度より 12 件減少し、子ども本人からの相談が母親からの相談を上回っています。また、祖父母からの相談が 12 件で、前年度より 8 件増加しています。



*年代は、2009（平成 21）年度に小学生が 119 件（56％）と多く、次に中学生が 55 件（26％）、高校生が 17 件（8％）、3 歳未満を含めた就学前が 12 件（6％）でした。小学生、中学生の相談が増加し、高校生、就学前の相談が減少しました。

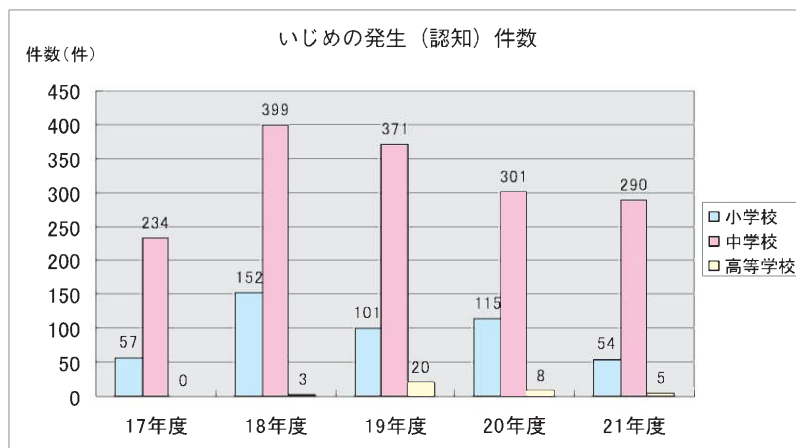


※出典：「人権オンブズパーソン平成 21 年度報告書」（2010 年 6 月川崎市人権オンブズパーソン発行）

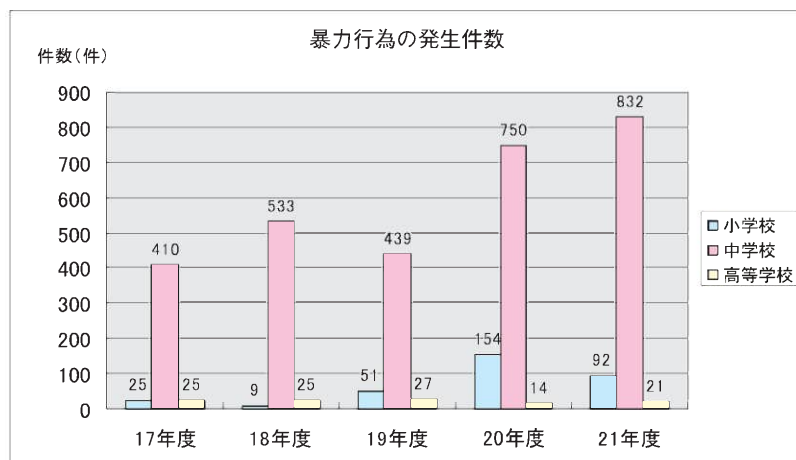
4 川崎市における教育関係の現状と取組の成果

(1) いじめ・暴力行為の発生件数及び不登校の児童生徒数

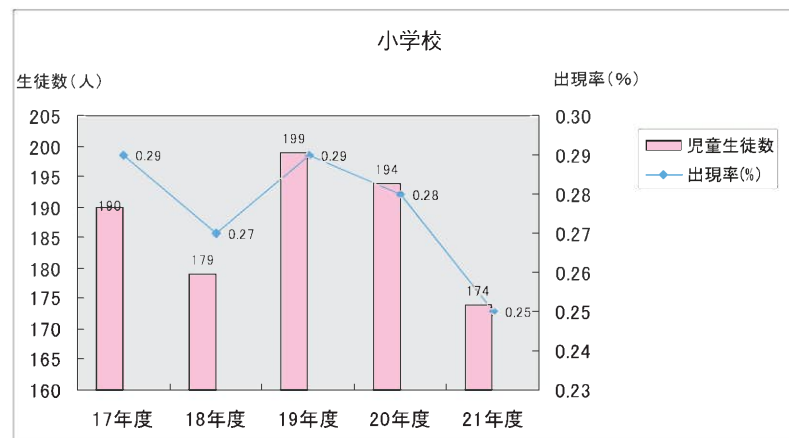
ア いじめの発生（認知）件数について



イ 暴力行為の発生件数について



ウ 不登校について



※出典：「児童生徒の問題行動等児童生徒指導上の諸問題に関する調査（川崎市）」